

宇宙科学専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目名	授業科目の内容	担当教員		単位	開講 学期	曜日・時限	教室	備考
		職名	教員氏名					
宇宙物理学概論	宇宙物理学および太陽系科学の発展を概観し、様々な問題意識を掘り下げて将来を展望するとともに、主として衛星・探査機・観測ロケットなどの飛翔体を用いた研究手法について解説する。		宇宙科学専攻各教員	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙工学概論	宇宙科学・宇宙開発の発展を概観し、宇宙開発の将来を展望するとともに、衛星・探査機・ロケットなどの宇宙システムに関するミッション解析、軌道決定、制御方策、プロジェクト管理などを含む設計技術について講述する。		宇宙科学専攻各教員	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙探査科学特論	宇宙科学観測を行なう人工飛翔体の実現には、宇宙環境と飛翔体の制約を考えた設計や実験・観測技術が必要となる。本講義では、基本的な物理的考察をもとにした宇宙科学観測の評価・設計手法や実験・観測技術を紹介する。	准教授 准教授	紀伊 恒男 松崎 恵一	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙システム工学特論Ⅱ	ロケットシステム、惑星探査プローブ、再突入システム等、地上から大気中、そして宇宙空間を航行する宇宙航行システムの基礎理論と技術について講述する。又、飛行・軌道計画そして誘導制御、熱防御、緩降下・回収システム等の基礎理論についても解説する。さらに、その応用、課題、将来展望についても言及する。	教授 准教授	森田 泰弘 山田 哲哉	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙システム工学特論Ⅳ	宇宙での電力利用(発電、蓄電、送電、電力管理)について、基礎技術からエネルギーシステムへの応用までを講述する。	准教授 准教授	曾根 理嗣 田中 孝治	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
飛翔体天文学特論Ⅰ	飛翔体によるX線、ガンマ線観測で明らかになった、宇宙の様々な高エネルギー現象について講述するとともに、その背景にある物理について考究する。また、飛翔体搭載のX線・ガンマ線検出器や望遠鏡の原理と実構成、およびそのデータ解析手法について講義を行う。	教授 准教授	石田 学 国分 紀秀	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
飛翔体天文学特論Ⅲ	飛翔体を用いた電波天文観測、とくにスペースVLBI (Very Long Baseline Interferometry)観測技術とその科学成果を講述する。それを理解するのに必要な電波干渉計の原理、地上の観測VLBI観測、さらにその成果についても紹介する。	准教授 助教	村田 泰宏 土居 明広	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
固体惑星探査科学特論	太陽系固体惑星の飛翔体探査例を示しながら、研究の目的、手法を述べ、それらから得られる知見がもたらす、惑星系の起源および進化過程の研究の進展について考究する。	准教授 准教授	岩田 隆浩 田中 智	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
太陽系プラズマ物理学特論	太陽系は、宇宙に普遍的に存在する多様な「プラズマ現象」を直接解明できる貴重な実験室である。地球の大気上層から、その周りの宇宙空間(ジオスペース)、さらには太陽大気や惑星間空間内に分布するプラズマの性質について学び、そこに起こる現象の背後にある自然の仕組みを学ぶ。また、磁化惑星(水星、地球、木星など)や非磁化惑星(火星、金星など)の探査計画の概要や、プラズマ計測の原理などについて考究する。	准教授 准教授	篠原 育健 高島 健	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ

宇宙科学専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目名	授業科目の内容	担当教員		単位	開講学期	曜日・時限	教室	備考
		職名	教員氏名					
宇宙機推進工学特論	宇宙輸送系の主推進および宇宙探査機の軌道変換/姿勢制御に必要な化学推進や電気推進を含む非化学推進システムに関し、基礎研究から実用さらに将来動向について講述する。	准教授 准教授	船木 一幸 西山 和孝	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙機構造・材料工学概論	宇宙飛翔体を構成する各種材料について、高強度化・高靱化の手法、成形法及び信頼性評価技術について、講述する。また、これらの材料を用いた宇宙飛翔体の構造設計手法についても講述を行う。	准教授	後藤 健	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙電子情報工学概論	宇宙機の地上、搭載通信技術について学ぶと共に、情報化社会を支える様々な技術の理解にもつながる基礎的な知識を獲得する。	教授 准教授	山本 善一 戸田 知朗	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙電子情報工学特論Ⅱ	人工衛星・惑星探査機の姿勢や位置の検出法、制御法として、センサ技術、センサ情報処理技術、アクチュエータ技術および制御アルゴリズムを講述し、現状での問題や課題を整理し、研究の動向と将来展望を考究する。	准教授 准教授	坂井 真一 吉光 徹雄	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙電波応用工学概論	宇宙機システムでは、レーダをはじめとする電波応用システムが広く利用されている。例を挙げると、ロケット追尾、衛星測位(地上局からのレンジングやGPS)、リモートセンシング等である。本講では、レーダの基本原理解、方式、ハードウェア構成、信号処理について宇宙システムでの実際の適用例について概説するとともに、最新のレーダに関する話題についても触れる。さらに、近年衛星搭載への応用がさかんになっているレーザ距離計についても原理から応用まで講述する。	准教授 准教授	水野 貴秀 福田 盛介	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
計算工学概論	数値シミュレーション技術を中心とした計算科学は理論、実験と並んで第3の科学と呼ばれ、宇宙科学においても非常に重要な研究・開発の手段となっている。本講義では特に工学的な立場から数値シミュレーション技術、最先端の設計探査技術および計算工学を支える高性能計算機や関連する諸技術について講義を行う。	准教授 助教	高木 亮治 三浦 昭	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙環境利用基礎科学特論	宇宙環境の特徴の一つである微小重力環境を利用した研究のうち、基礎科学と呼ばれる分野について講義を行う。講義内容は、主として基礎物理と基礎生物学で構成される。基礎物理では、ダストプラズマの物理を中心に、最新の微小重力および地上での実験結果とデータ解析手法について述べる。本講義を通じて、プラズマ物理、古典統計物理、固体物理等についても学ぶことができる。基礎生物学では、宇宙環境という極限環境下で微生物、植物、動物、人間がどのような影響を受けるのか、ということを中心に、生命の起源やその未来について広く述べる。	准教授	橋本 博文	2	開講せず	開講せず	開講せず	開講せず

宇宙科学専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目名	授業科目の内容	担当教員		単位	開講学期	曜日・時限	教室	備考
		職名	教員氏名					
宇宙環境利用工学特論	宇宙環境の内、地上では実現困難な無対流、無容器について、材料科学分野、での実験機器の開発と、これらの分野の各種実験と実験技術開発について解説する。無容器については微小重力下で融体試料中に最も擾乱の少ない静電浮遊位置制御技術と熱物性及び準安定相創出による新機能材料開発、また、無対流については微小重力下での結晶成長メカニズムの解明とともに高品質半導体結晶の創成に関して詳しく論じる。	教授	石川 毅彦 稲富 裕光	2	要問合せ	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙科学考究Ⅰ	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員		4	通期	×	×	×
宇宙科学考究Ⅱ	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員		4	通期	×	×	×
宇宙科学考究Ⅲ	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員		4	通期	×	×	×
宇宙科学考究Ⅳ	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員		4	通期	×	×	×
宇宙科学考究Ⅴ	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員		4	通期	×	×	×
宇宙科学特別研究Ⅰ	博士課程(5年一貫制)の2年次の学生を対象とし、1~2年次で各自が自分の専門テーマに沿って行った研究を論文の形にまとめ、口頭発表を行う。	宇宙科学専攻各教員		2	前期後期	×	×	×
宇宙科学特別研究Ⅱ	博士課程(5年一貫制及び3年次編入学)の4年次の学生を対象とし、博士論文作成のために研究している研究課題について、研究の進行状況に関する中間報告書を作成し、口頭発表を行う。	宇宙科学専攻各教員		2	前期後期	×	×	×
科学技術英語Ⅰ	和文論文の構成方法及び執筆方法に関する短期間の解説(日本人むけ講義と演習、約1ヶ月)の後、英語のPresentationに関して英語圏の外人講師による講義と演習を行う。	教授 准教授	堂谷 忠晴 岩田 隆浩	2	通期	要問合せ	要問合せ	要問合せ
宇宙科学演習	幅広い知見を獲得することを目的として学生が自ら企画した実質2週間以上の外部研修を単位化する。単位化の認定は学生の企画書と研修レポートを専攻運営委員会が審議して行う。			2	前期後期	×	×	×

【備考】

●問い合わせ先

宇宙科学研究所・科学推進部大学院担当

TEL:042-759-8012, MAIL:graduate@ml.jaxa.jp